

活用 傾斜配点 小テストにも、重要度の差があるから……

「同じようなテストをいくつも行ってきたけど、全部を単純に足し算してよいものか」
 「4番目のテストは活用力を見るので、他のテストの1.5倍の扱いにしたいけど、面倒だなあ」
 こんな悩みに、Excelは答えます。"Yes, we can." (古っ)

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	テスト名	A	B	C	D	E	結果	単純計	
2	重み付け	0.5	0.8	1	1.5	1			
3	一郎くん	20	20	20	15	10	78.5	85	
4	二郎くん	10	15	20	20	20	87	85	
5	三郎くん	15	10	20	20	20	85.5	85	
6	四郎くん	5	20	20	20	20	88.5	85	

左の表で、一郎君から四郎君まで、四人が5回のテストを受けました。偶然、四人とも合計点は85点です。でも、点の取り方が違います。一郎君は、初めのうちは調子よかったのですが、後に行くほど心細くなります。逆に、四郎君は後の方ほど点がいいようです。最初のうちは単元も改まって、どうも飲み込みがよくなかったのかも知れません。

さて、「結果」欄を見ると、どうも**四郎君が一番成績がよい**ようです。どうなっているのでしょうか。

お気づきの通り、G列には、四郎君に軍配が上がるような数式が仕込まれています。セルG3を例に取れば、その数式は、「 $=B3*\$B\$2+C3*\$C\$2+D3*\$D\$2+E3*\$E\$2+F3*\$F\2 」となっています。絶対参照を用いているので、その下のセル群は、安心して数式のコピーができますね。なお、「*」は、かけ算の演算子です。だったら「 $=B3 \times \$B\$2 + C3 \times \$C\$2 + D3 \times \$D\$2 + E3 \times \$E\$2 + F3 \times \$F\2 」と表せば日本人にもわかりやすいのに。そう日本式です。でも、Excelではそうはいきません。早く慣れることです。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1	テスト名	A	B	C	D	E	結果	単純計					
2	重み付け	0.5	0.8	1	1.5	1							
3	一郎くん	20	20	20	15	10	$=B3*\$B\$2+C3*\$C\$2+D3*\$D\$2+E3*\$E\$2+F3*\$F\2						
4	二郎くん	10	15	20	20	20	87	85					
5	三郎くん	15	10	20	20	20	85.5	85					
6	四郎くん	5	20	20	20	20	88.5	85					

1点の重みを変える

この式が表すものは、『「重み付け」の数値をそれぞれの素点にかけてから合計した』ということです。読み解けましたか？「導入期のテストAは0.5倍」「確認期のテストDは1.5倍」のように、同じ20点満点のテストでも、扱いを変えています。傾斜配点は、このように簡単に実行することができます。

「説明責任」とは、どこまでを言うのか、難しいところでしょう。が、説明するかどうかによらず、まず自らの評価に自信を持つために、このような「実情に応じた点数操作」ができることも大切です。

だけどもう、「A、B、C」でつけちゃったんだけど……

心配ありません。「ABC」を数値化するのは簡単です。また、それには「vlookup」や「if」が力になります。そもそも記録さえつけてあれば、成績に怖い物なし。数値化は難なくできます。今号の技と組み合わせるのです。今日は紙面の都合で割愛しますが、ご要望があれば、どなたにでも説明して回ります。また、そんな方があんまり多ければ本紙で文字にて説明します。